



難病と在宅療養

平素は格別のご贔屓にあずかり、誠にありがとうございます。

今年も残すところ1ヶ月を切りました。寒い時期なので、窓や部屋を閉め切ってしまうがちになってしまいますが、窓や部屋を締め切っていると空気が汚れて、どこことなく倦怠感が出たり、喉の違和感や風邪などの菌やウイルスが増えたりもしてしまいます。1時間に1回換気を心がけましょう。ぜひご家庭でも閉めばなしにならないように、おひとりでもまめな換気を行うようにしてくださいね。

今回は、『**ワンチームで難病と向き合うには**』というテーマです。現状では治療法がなく病状が進行していく病気難病についてです。ご本人も心身ともに以前の自分とは異なり、進行していく病状を受け入れ難く、どうやって生活していけばいいのか悩む事が多いと思います。在宅でそれをどこまでフォローできるか、ご本人を中心にご家族を含めた多職種がワンチームとなり、支援したお話です。良い仲間たちとお仕事ができ良い勉強になりました。

ホームページも開設しております。『ネットワーク訪問ナーズステーション』で検索すると、一番上に出てきますので是非覗きにきてくださると嬉しいです。👉**「PTさん大募集中です」お問い合わせください。**

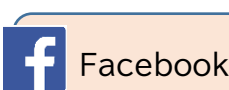
今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



J様 男性 73歳 要介護2 現病歴:筋萎縮性側索硬化症(ALS) 胃瘻、ラジカット点滴治療中。うつ症状の既往あり。ALS進行性のため急激に発語は全くできない状態になり、コミュニケーションはiPad使用。ADLはほぼ自立。夜間は人工呼吸器(BPAP)を装着。キーパーソンは7月に結婚したばかりのご長女様。当初2021年12月に呂律が回らない症状出現し2月に診断確定。4月に胃瘻造設し5月より在宅療養となる。発病するまでは現役で活躍されており、趣味も音楽、スポーツ、山歩きと多趣味でおられた。7年前に奥様を亡くされ、一人暮らしをしていたが、発病もあり、結婚を機にご長女様が同居され介護の生活が開始した。在宅療養開始直後の5月は疾患に対し前向きな発言も聞かれ、経管栄養もトラブルなく経過。6月、7月になるともととあった前立腺肥大症による尿閉から膀胱留置カテーテル挿入となるが呼吸リハを含め筋膜リリースなどのリハビリも意欲的に行っていた。点滴治療も前向きに行える。流延も多くなり、嚥下状態が悪く、痰の吸引回数は増加傾向にあった。8月になると長女が復職し、日中独居で、一人になる事の不安が増強、もとよりあったうつ症状出現で点滴治療や経管栄養も拒否されるようになり、呼吸筋低下に伴う痰の排出困難や心理的なことから不眠も出現し不穏状態へ急変した。ご家族も仕事と家庭がある中で、できる対応は全て行った。進行する病状を十分に観察し、状態に合わせた看護を提供するために他職種との連携、利用者の身体状況と介護者の介護技術力に合わせた介護方法を検討する事が必要とされた。ご本人を含め、ご家族、医療従事者、介護者ワンチームとなり向き合う事が最初は出来ていたが、病状進行に伴い不安やうつ、家族の役割の変化で残念ではあるが在宅での療養は一時見送ることとなった。身体的にも精神的にも難病を受け入れ、支えていく事は一筋縄ではいかない事を知った。しかし、ご本人の希望で入院を選択し、気管切開は絶対しないと仰っていたが、気切造設し、生きる選択をされ、現在は生活の場に戻るステップ段階とし、老人施設へ一旦入所し状態安定を待っている。、また在宅へ戻れる日を心待ちにしております。(足立)



神経難病、認知症、精神疾患、がんターミナル、看護師によるリハビリ等を特に得意としております。悩んでいるご利用者に**医療相談**や**訪問看護お試しサービス**を無料で行っております。お気軽にお問い合わせください



24時間対応

ターミナルケア・お看取りも対応いたします

訪問地域

その他の地域もぜひご相談ください!

世田谷区

松原・代田・代沢・豪徳寺・梅ヶ丘・宮坂・経堂・赤堤

杉並区

永福・和泉・浜田山・下高井戸

〒156-0043

世田谷区松原2-41-15エテルノ明大前203

TEL:03-6762-2272

FAX:03-6767-3703

03-6379-0684

